

プノンペン日本人学校

プノンペン日本人学校は、カンボジア王国の首都プノンペンにおいて平成27年(2015年)に開校し、今年で開校6年目を迎えたばかりの新しい学校です。開校当初、21名だった児童生徒数も平成30年(2018年)には60名に増え、初代校長の「ともに みがき はばたく子」という学校教育目標と「知的遊園地」をモットーに、魅力的な学校創りに取り組んできました。

本校は、小学部・中学部ともに各学年1クラスという少規模校ですが、それを生かして、「スマイル班」という小学部と中学部から成る3つの縦割り班を編成し、日々の学校生活の中で異学年交流を通じた活動を行っています。そして様々な学校行事を児童生徒が中心になって創り上げています。特に水泳大会や運動会では、スマイル班が様々な競技で競い合い、行事を盛り上げると同時にお互いの絆を深めています。

異文化理解の活動としては、現地校との交流を行い、現地語のクメール語や英語を使いながら、伝統的な遊びや学習等を通して交流を深めています。特に本校で取り組んでいるのが、「ココナッツダンス」というカンボジア王国の伝統的な踊りです。全校児童生徒で練習を重ね、毎年日本人会が主催する盆踊り大会で披露し、現地の方々にも喜ばれています。



また、カンボジア王国はアンコール遺跡群に代表されるように、かつてはクメール文化が栄えた伝統豊かな国です。修学旅行では、アンコールワット遺跡の修復に携わっている日本人、クメール・ルージュにより衰退した絹織物の伝統工芸を復活させた日本人など、カンボジア王国の復興に携わる多くの日本人の方々に出会ったり、古くから水上で生活をしている村や伝統文化を守り続けている人々を訪れたり、たくさんの方のことを学んでいます。

このように、復興と新興が入り混じり、決して恵まれているとは言えない学習環境の中でも、子どもたちは国際人としての資質を育みながら充実した日々を過ごしています。

平成29年度派遣 ロマス教諭 寄稿